

◎ 普通科2年生では類型別に選択授業があります。将来、学校の先生や幼稚園教諭、保育士になりたいという生徒たちが、子どもたちの発達やその課題について学んでいきます。



◎ 昨日、高大連携の一環として、仙台大学の柴田千賀子先生を講師に迎え、「子どもの発達と保育」の授業が行われました。保育を学ぶ意味や保育者が子どもに与える影響などについて実際の写真とお話していただきました。



◎ “子どもが好き” その気持ちを未来につなげることを目標として日々の学習に励んでいます。子ども=守られる存在、手助けしてあげるものというような考えではなく、子どもが持っている能力を引き出していくことが保育者の重要な仕事であると教えていただきました。次回は赤ちゃん人形を使い、抱き方、ミルクのあげかた、検温の方法など実技の学習を予定しています。

◆◆ 生徒の感想 ◆◆

◇ 私は「保育」は子どもを導くものだと考えていましたが、今日の授業で、保育者が導くだけのものではなく、子どもの可能性を広げ、保育者と子どもが共に探究し、成長するものだと学びました。(2-10 高橋咲良さん)



◇ 「保育」はただ子どものお世話をするという簡単なイメージしかなかったけど、今日の講義を聴いて、小さな子どもにも自分で考えて行動する力があるんだと感じました。「保育」には答えがないからこそ難しいのかも知れないけれど、だからこそいろいろな答えがあって楽しいんだと知ることができました。(2-9 今野美海さん)

◇ 〈今までの保育観〉いかにけがをさせないように、泣かせないようにするかが大切だと思っていました。〈今日の講義で〉私たちがこうしたら？など提案する前に、話を聞いてみる見守ってみるのも大切なんだと気づくことができました。⇒ 〈今日からは〉子どもという全体ではなく、その子一人一人にきちんと向き合える保育者になりたいと思いました。今日一日でだいぶ見方が変わった気がします。(2-9 浅野琴未さん)

◇ 子どもは言葉がきちんと話せなくても、行動して何をして欲しいのか伝えようとしていて、すごいなと思いました。大人も、子どもが「自分でしたい」という気持ちを理解することで、お互いの成長になると言うことを学びました。私は子どもとの関わり方は簡単だと思っていましたが、きちんと子どもを見て、理解するのは難しいと感じました。でも、興味がわきました。(2-10 相澤琴葉さん)

教育未来デザイン類型は、
3年次◆学校教育系と◆幼児教育系
に分かれ、未来をデザインします

◇ 子どもが大変そうだったら私はいつも手を貸してしまうのですが、あえて遠くで見て、あえて手を貸さないことでその子の可能性を引き出せたり考える力が付いたりすることを学ぶことができました。保護者と保育者の意見交換



も子どものさらなる成長においてとても重要だと思いました。「大人の関わり次第で子どもの可能性は変わってくる」と確認することができました。(2-9 伊藤妃奈さん)